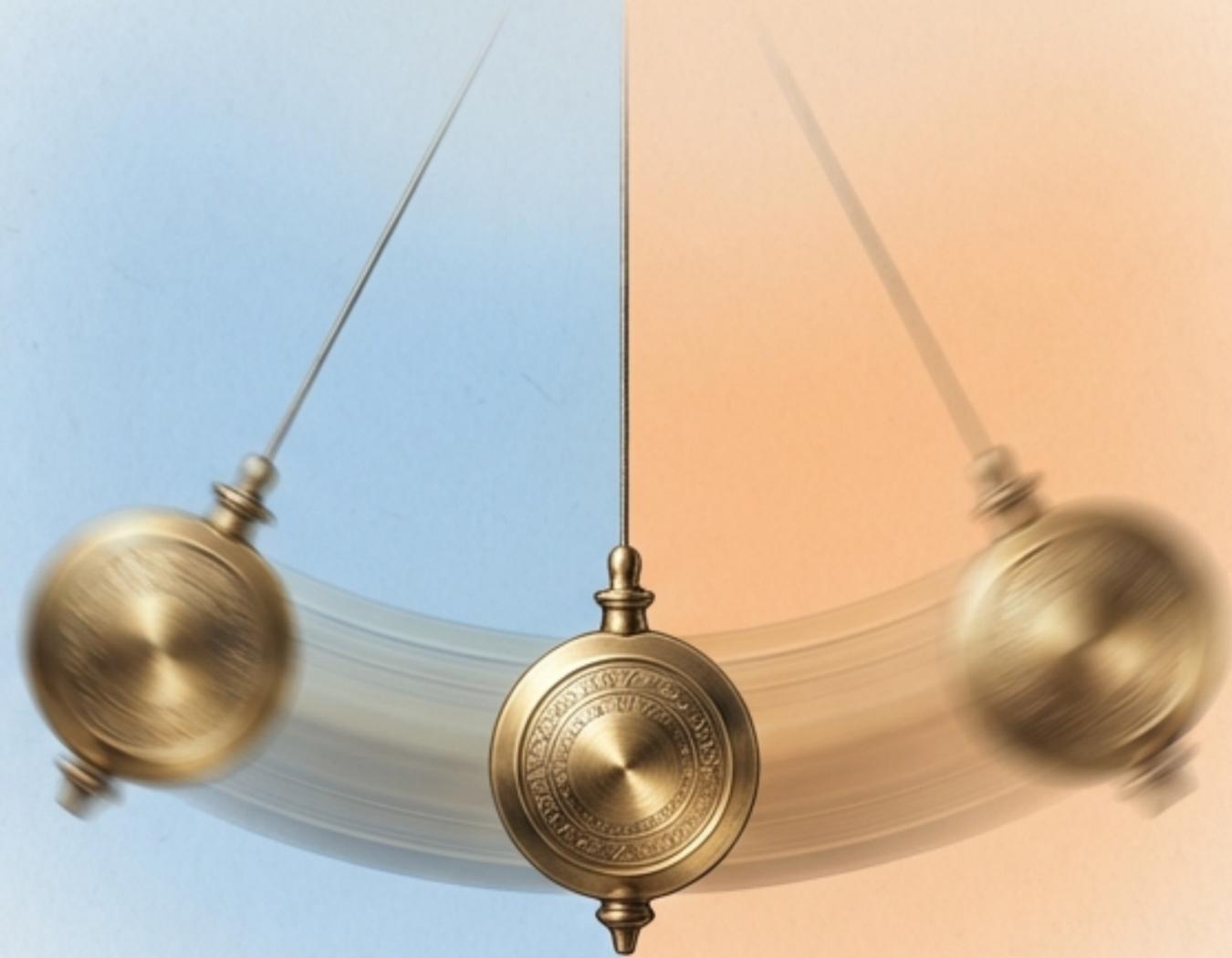


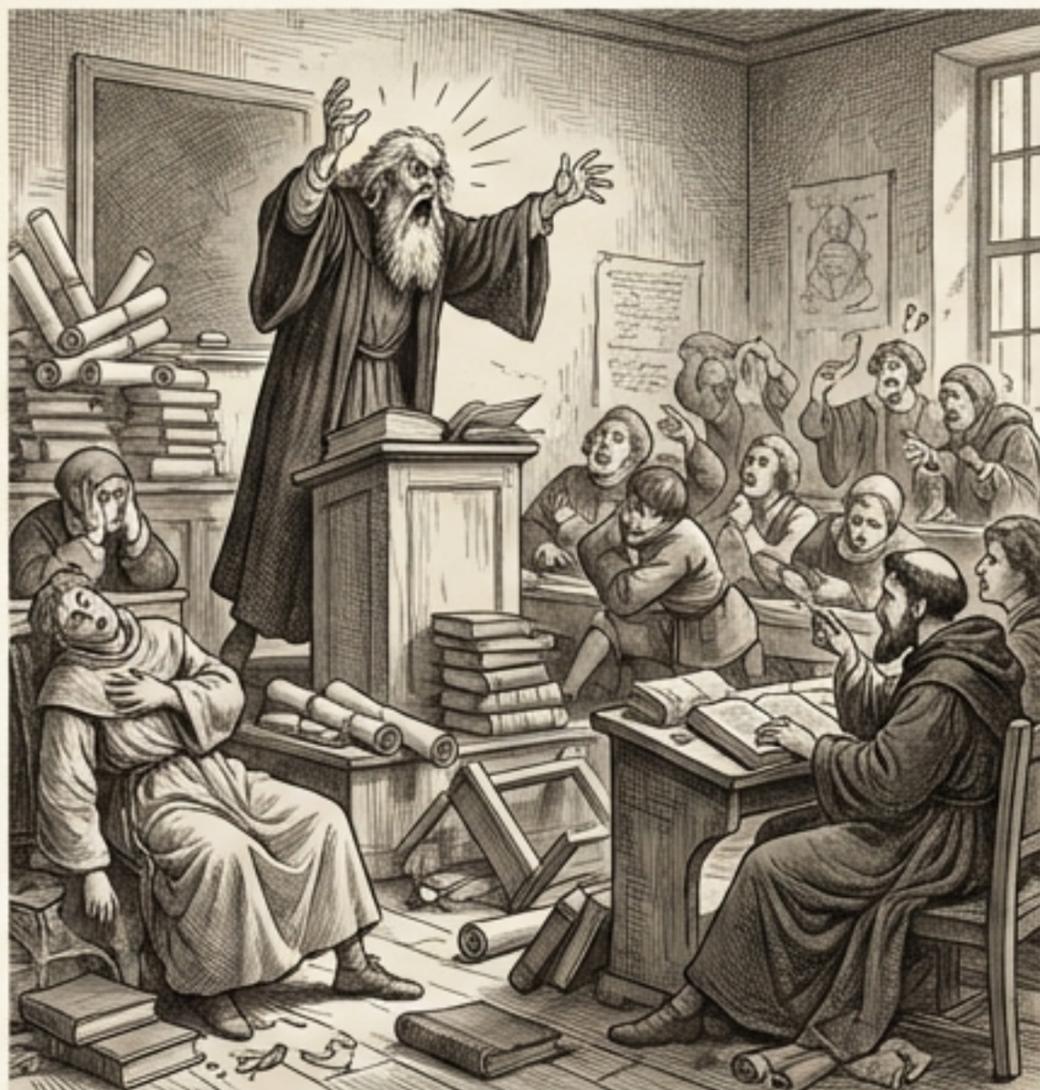
日本の学校カリキュラムの歴史と未来

「何を教えるか」を巡る、**国家**と**子供**の物語



振り子（**Pendulum**）と**進化**の視点から読み解く

カリキュラムの定義：学習者のための「走路」



カリキュラム以前 (Chaos)



語源

ラテン語の「**Currere (走る)**」に由来し、英語の「**Course (コース)**」と同義。

歴史的転換

教授が「好きなことを教える」時代から、学習者が修了するために履修すべき「**順序と内容**」を明示したものへ。

本質

教育の根幹にある「**何を、どう教えるか**」の設計図。

西洋の源流 (1) : 教養と国家による統制



自由七科 (リベラルアーツ)

- 三学 (Trivium) :
論理学、文法、修辞学
- 四科 (Quadrivium) :
幾何、算術、天文学、
音楽

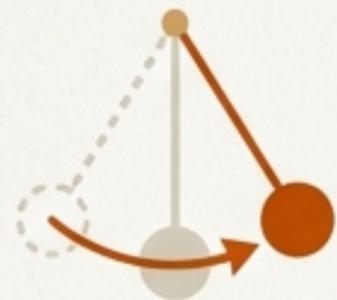
目的: 神学 (Theology) への準備教育



義務教育の誕生

ドイツ・ゴータ公国にて、専制君主が「国家のため」に民衆教育を開始。

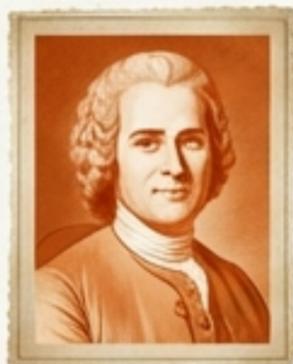
Key Insight: 初期のカリキュラムは、統治と宗教的秩序のために存在した。



西洋の源流 (2) : 子供の発見と経験主義

「性悪説 (矯正)」から「性善説 (自然な発露)」へ

系統主義



ルソー (Rousseau)

「自然に帰れ」。大人の介入は子供を歪める。消極的教育の提唱。



経験主義



デューイ (Dewey)

「児童の世紀」。書物の知識より、子供自身の活動・経験・生活を重視。

【対立軸の定義】

系統主義 = 学問・知識・国家 (Subject-centered)

経験主義 = 子供・活動・自由 (Child-centered)

江戸までの学び：階層による多様な教育



武士（藩校・私塾）

- 儒教（朱子学）を中心とした徳育
- 「忠孝」と統治能力の育成



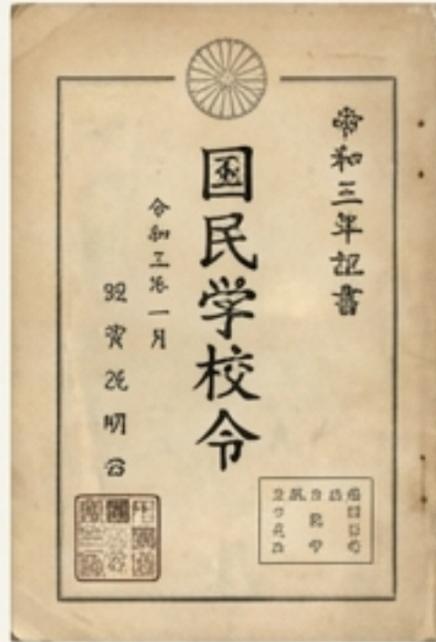
庶民（寺子屋・郷学）

- 「読み・書き・そろばん」
- 実用性と自律的な学び（往来物）
- 幕末には世界最高水準の識字率を達成



戦時下：教育（Education）か、洗脳（Indoctrination）か

昭和16年 国民学校令



- 教科を統合：国民科、理数科、体錬科、芸能科
- 全ての学びを「皇国」のために（軍国主義的色彩）

Indoctrination （洗脳・依存）



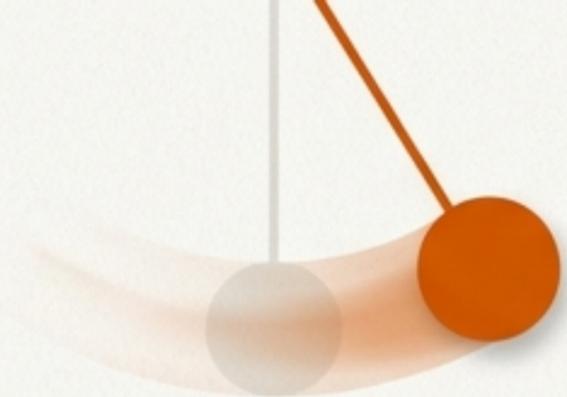
Indoctrination

Education （自律）



Education

教訓：国家への過度な依存は「自律」を奪う。



戦後改革：経験主義への急旋回（1947～）

昭和22年（1947）

- ・6-3-3制、教育基本法 
- ・デューイの影響：経験主義 
- ・新設科目：「社会科」「家庭科」「自由研究」 

昭和26年 学習指導要領（試案）

- ・法的拘束力のない「手引書（ガイドブック）」扱い 
- ・現場教師への大幅な裁量権 
- ・単元学習・問題解決学習 



系統主義への回帰：現代化と詰め込み（1958～1970s）



国立教育研究所調査による
「学力低下」批判

	1958年: 指導要領の法的拘束力化	
	特設道徳の導入（規範意識）	
	1968年: 現代化カリキュラム （理数系高度化）	
	スプートニク・ショック 以降の科学競争	

結果：「落ちこぼれ」の増大

ゆとり教育とその反動：激しく揺れる振り子（1980s-2000s）

ゆとりと充実

校内暴力・落ちこぼれへの対策

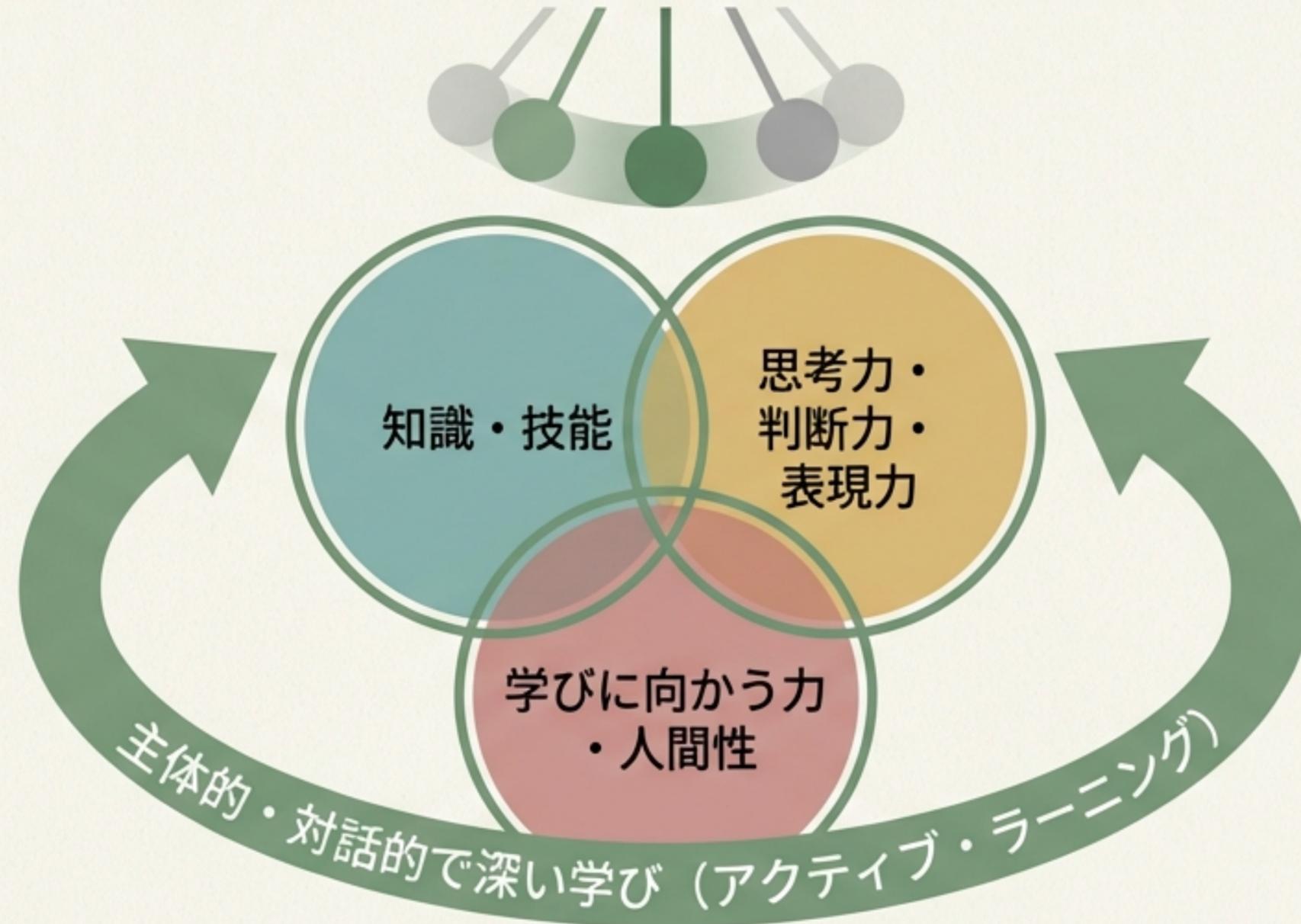
- 生活科（小1・2）導入 
- 総合的な学習の時間（生きる力）？ 
- 授業時数の削減 

脱ゆとり（確かな学力）

PISAショック（国際学力順位の低下）

- 「最低基準」から「発展的学習」へ 
- 授業時数の増加 
- 外国語活動の導入 

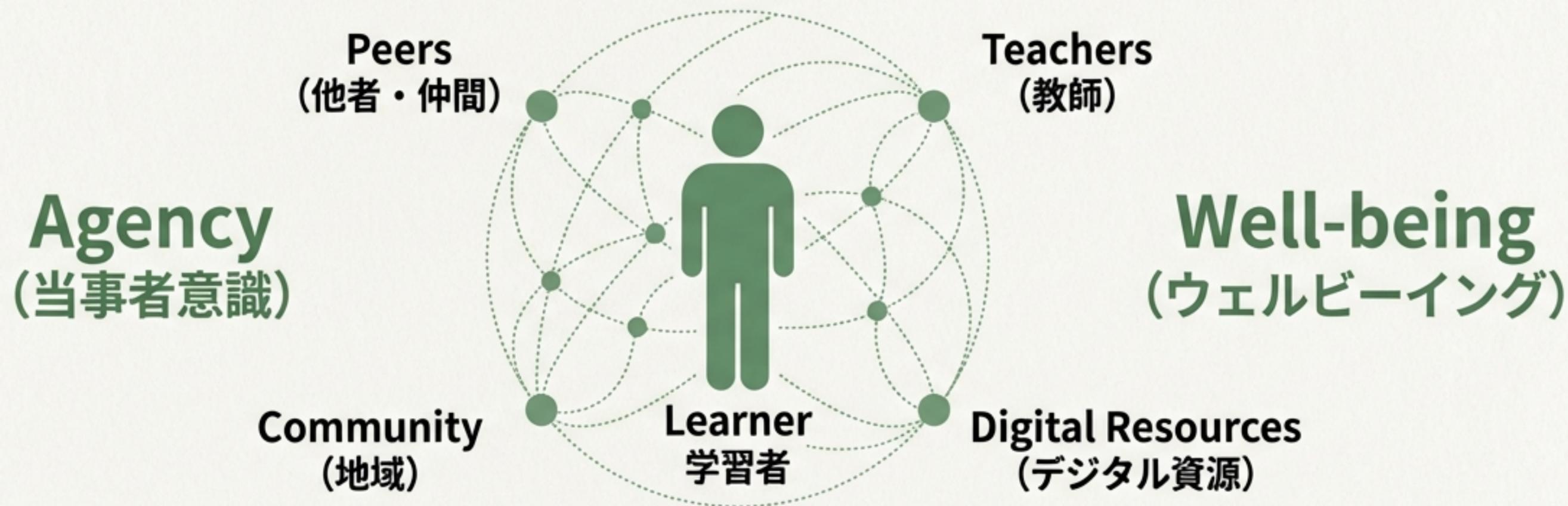
現代の転換点（2017）：資質・能力ベースへ 「何を教えるか」から「何ができるようになるか（Competencies）」へ



カリキュラム・マネジメント：社会に開かれた教育課程の創造

2030年の地平：個別最適な学びと協働

OECD Education 2030



令和の日本型学校教育

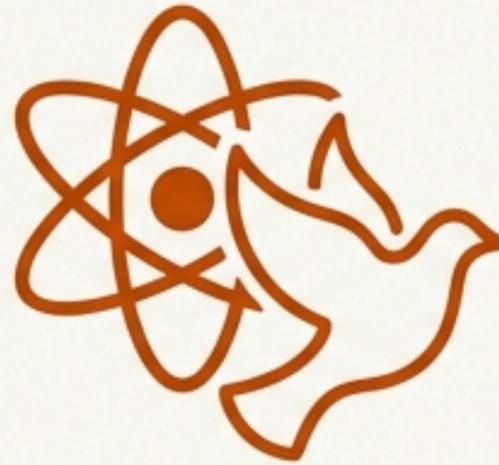
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
教師主導の一斉教授 → 学習者が自ら調整・決定する学びへ

現代のカリキュラムが直面する3つの存亡的課題



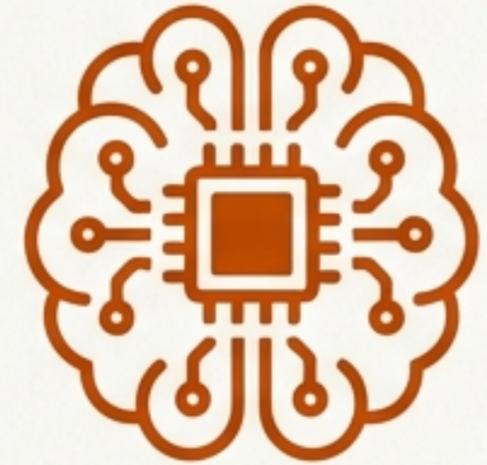
1. 地球環境問題

気候変動、SDGs。人類の生存基盤そのものの危機。



2. 核・平和問題

戦争、原発リスク。制御不能な破壊を防ぐための理性の維持。

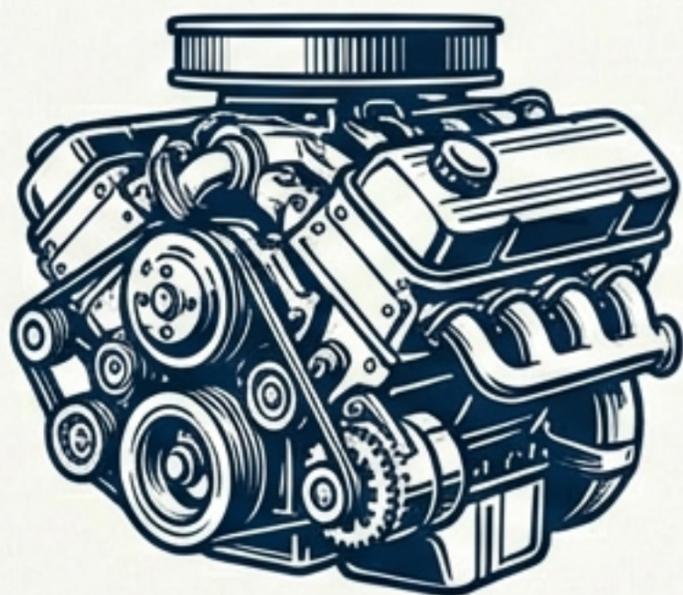


3. 高度情報化 (AI)

2040年問題。AIが人間の知能を超える時、人間はAIを制御できるか？

教育の新しい役割：能力開発から倫理・制御へ

これまでの教育



能力の「開発 (Development)」
可能性を引き出し、伸ばすこと (アクセル) に主眼。

これからの教育



自らの行動や技術への「制御 (Control/Feedback)」
破滅を避けるための倫理観と判断力。

AIや環境破壊を前に、自らを律することができる主権者の育成。

結論：目の前の子供のために

教育は国家や社会のためにあるのではない。
「目の前の子供」が自立するためにある。

しかし、その子供が生き抜く未来（社会）を持続可能にするためには、高度な知性と倫理が必要になる。



振り子の揺れに翻弄されるのではなく、未来の困難を生き抜く
「自立した主権者」を育てるカリキュラムデザインを。